

うずわ釣り

高梨 万三

この話は、ことし七十八才になる高梨老人の小学生時代のことを思い出したので、当時、夏のなかばから秋いっぱいにかけて、小田原海岸では「うずわ釣り」が大変盛んであった。

「うずわ」とは、小田原獨特の呼び名で、東京地方では俗に「そうだ鱈」という魚である。その味は、刺身によし、焼いても、煮てもよしという万人向きである。

この「うずわ」が、当時小田原の海岸で、素人にも釣れたというのである。商店の主人あり、また隠居さんありで浜は大変賑った。この頃になると、この「うずわ」の群がしらすを追って波打ち際まで押しよせて来るのである。そこへ釣り糸を投げ込むと、糸についてあるおもりを「しらす」と間違えうずわがとびつき、釣針に引っかかるので素人にも釣れた。

ところが、私の亡父は天性の不器用で、酒屋もので力があったが、他の人が一日に三疋も、四疋も釣るときに、一匹でも釣ればいい方で、釣れない時が多か

砂浜に引き上げられる、その醍醐味は、なんともいわれないものがあつた。

そして、このうずわの群の群れを引いて、上手に釣糸を投げた。丁度蚕のまゆのような孤をえがいておもりが飛んでゆくと、うずわが、しらすと間違えてとびつく。けれども父の投げるおもりは、うずわの群の手に落ちて、却って魚群を追いやつてしまう結果になつた。

うずわの最漁期になると、早朝、日の出の頃、雨天でない限り、うずわの群は海面にさまざまなを立てて、波打ちぎわまで迫つて来た。これを「いなぶ」といって釣る人は張り切り、針にかかつたうずわと真剣にとり組み、魚が水中の綱の重みに堪えかねて次第に弱まり

砂浜に引き上げられる、その醍醐味は、なんともいわれないものがあつた。そして、このうずわの群の群れを引いて、上手に釣糸を投げた。丁度蚕のまゆのような孤をえがいておもりが飛んでゆくと、うずわが、しらすと間違えてとびつく。けれども父の投げるおもりは、うずわの群の手に落ちて、却って魚群を追いやつてしまう結果になつた。

通機関の発達、道路の整備ということもあるが、他にレクリエーションの地を求むるに至つては、小田原の海岸の魅力もなくなつて来たといわなければならない。

話は横路にそれたが、いままで話したことは、素人のうずわ釣りの話であるが最盛期になると、海岸より四一五町沖にうずわのいなぶが見え、漁師達の小船は、その群を追つて短い竿に短い釣糸で釣り、いわゆる鯉つりで、針にひ

然るに、この牡蠣は、近年海水の汚染が第一の原因で見られなくなつたばかりでなく、当地方の近海漁業にも不振を示した。第一砂浜のきたなくなつたこと言いかえれば、海岸を塵芥の捨て場とする家庭の多くなつたのには驚くはかはない。

私が少年時代に、早朝や夕刻、呼吸器病の患者が、海岸のオゾンを取つて療養していたり、また丈夫な人でも健康のためよく海岸へ出たものである。その頃荒久海岸に別荘生活をたのしみ、新鮮な魚を食膳に供していた人々も、交

の群を追つて海岸近くまで来ると、こんどは浜から地洩き網を持ち出す。東は山王川より、西は早川まで、数十じようの地洩網が張られるのである。ところが、この地洩網を張るには父祖伝来の定めがあつて、いささかの紛争も起らないので、毎に定つており、どの網へ顔を出すわけでもない。そして殆んどが労賃なしで働き、漁によって魚が与えられる仕組みである。

私の家では、うずわを沢山買つてこれをひらき、塩漬にし長期間保存して食用に供していた。

三月廿六日午後一時より理事会及び十字町地区史跡めぐりを同地区光円寺に催し理事廿一名来席し立木氏司会の基に役員改選を行いし結果前年通りにて、会長井上英一、副会長清水喜吉、中野敬次郎、理事も前年通りとし、昭和四十二年度総会を五月十三日と定む昭和四十二年の豆相史談会が小田原史談会の当番なる由を報告承知し、小田原

の群を追つて海岸近くまで来ると、こんどは浜から地洩き網を持ち出す。東は山王川より、西は早川まで、数十じようの地洩網が張られるのである。ところが、この地洩網を張るには父祖伝来の定めがあつて、いささかの紛争も起らないので、毎に定つており、どの網へ顔を出すわけでもない。そして殆んどが労賃なしで働き、漁によって魚が与えられる仕組みである。

春の史跡めぐり

小田原史談会、昭和丁未の春の史跡めぐりを大磯地方に求め、照りもせず曇りもはてぬ四月二日一行六十人はバスの客と交り朝八時半、郷土館前を出発し、立木理事より本日の行程と史跡の説明あり、程なく中郡の六所神社に着き、其地の郷土史家山田一男氏より周辺の変遷や古実、国府三遷の跡、往古の江戸道なるかすや街道より、祇園家敷、塚跡、社跡、社家地、総社等の説明、神揃山の神事等詳しく話され、住時をしのびました。それより、羽根尾古墳群を見学し、大磯宿の三軒の本陣、二軒の問屋場の旧前を通り、茶屋町より、けはい坂にて昔ながらの松並木のもとにて山田先生より往時を聴き、今は富士銀行の痕となれる元安田邸の折から花時のみやびたる人なき庭園を廻り、墓山の奈良期近きと云石郎の古蹟を見学し、立木氏より平安か前後いづれに近きやとの話に耳を傾け、尙裏山に登り、二段の横穴古墳数々を見聞し、下りて国道切通し脇の大磯城跡なる元三井

史談誌四十六号出来せるを配布す。役員会終了後午後二時より十字町方面史跡めぐりを中野敬次郎氏の説明講演にて光円寺、伝蔵寺、玉伝寺天神社、井神社、昔の小田原水道の取入口等を説明され弥生の晴天の半日を五十分数名好き行楽を共にしました。(清水記)

十字町地区史跡めぐり及理事会

史談誌四十六号出来せるを配布す。役員会終了後午後二時より十字町方面史跡めぐりを中野敬次郎氏の説明講演にて光円寺、伝蔵寺、玉伝寺天神社、井神社、昔の小田原水道の取入口等を説明され弥生の晴天の半日を五十分数名好き行楽を共にしました。(清水記)

別邸の如庵に至り大橋管理
人より信長の第有楽斎の現
在は国宝なる如庵の謂から
佗茶の車まで聞き入り、重
要文化財の書院にて京苔の
庭を眺めつゝ昼食をすまし
三々五々邸内を歩き闊けた
る山庭の大傘の亭に又は荒

小田原史談会総会報告

清水専吉郎

名出席開催。

昭和四十二年五月十三日
中央公民館に於て本史談会
総会を午後一時より催会し
ました。開会に先立ち井上
英一會長出席せられしも所
用あり外出せられ清水副会
長代行にて午後一時半開会
しました。五五名出席

六月五日春季史跡めぐり
国府津よろぎ丘陵、参加者
五十二名
六月廿五日理事会、史跡
めぐり関係者謝礼、冊子発
行の件
九月八日理事会尊徳祭の
件、文化祭参加展覧会の件
小田原史談発行の件
十月六日東京国立博物館
見学会三十名参加。
十月八日理事会博物館見
学報告。文化祭参加決定小
田原の交通展とす。冊子発
行の件、四十二年一月廿一
日理事会、史談発行の件、
冊子発行の件、互相史談会
参加に関する件。

四月十四日理事会、総会
打合せ、四十一年度行事の
件、中野敬次郎氏送別会に
ついて。

二月廿八日理事会総会に
ついて、十字町史跡めぐり
の件。
三月廿六日理事会、役員
改選、総会開催の件、十字

四月廿四日小田原史談会
総会、規約改正、役員改正
中野敬次郎氏講演松田憲秀
謀反の真相、中野敬次郎氏
送迎会を喜仙すして卅二

町史跡めぐりを行う。光円
寺、伝肇寺、玉伝寺、居神
社、天神社。
収入の部
会費二百十五人分
会報売却代金
市補助金
寄附金
旅行残金
前年度繰越金
合計

四月廿四日小田原史談会
総会、規約改正、役員改正
中野敬次郎氏講演松田憲秀
謀反の真相、中野敬次郎氏
送迎会を喜仙すして卅二

支出の部
はがき、切手代
会報印刷代
謝礼
封筒印刷代
木炭
香奠
見舞金
お茶代
事務局史跡めぐり費
更紙
中野課長送別会
祝儀袋
領収書用紙
合計

四月廿四日小田原史談会
総会、規約改正、役員改正
中野敬次郎氏講演松田憲秀
謀反の真相、中野敬次郎氏
送迎会を喜仙すして卅二

差引残金
次年度へ繰越し、此内冊
子発行代金を含む、右本総
会に於て承認せられました
役員の改選は三月廿六日
理事会にての通り前年の儘
と決定されました。
会員川崎氏より青年層の
会員増強の要ありとの意見

以上報告の内田理事より
左の会計報告あり。

七七四〇〇円
二二〇〇円
二〇〇〇円
三七八〇円
八二五円
六六一六円
一六八、三九二円

六月四日板橋の秋葉山に
集合し八十名位中頃より百
二十名位までとなりました
午後一時秋葉山量覚院境内
にて山主山本雅門師より修
験道秋葉山の説明あり、神
仏美前に見学し毎年ある十
二月六日頃の火防祭の行事
を想い、山本氏の案内にて
松永美術館及び同庭園を觀
覽し黄梅庵の茶室に思いを
残して去り、それより中野
敬次郎講師の担当となり香
林寺は投入寺として駆込寺の
事情を知り、有名な板橋
地藏尊の常は人なき伽藍に
て緑日の雑沓を忍びつゝ地
蔵信仰の由来を聞き、境内
にある明治維新に箱根及び
山崎での戦争に於ける官軍
博士戦死の碑に小田原藩の
当時の苦境を察し、転じて
山県元師遺蹟の古稀庵庭園
の名石と清流を快覽し、帰
途石工の名家なる北条時代
より徳川時代を経て今日に
至れる青木家を訪北条虎の
朱印書又は関東石工頭等の

お話があり書物以上の秘話
を興味深く大いに参考にな
りました。

民俗資料展示
コーナー新設

市立郷土文化館では、か
ねてより民俗資料を収集し
ていましたが、だいたひ資料
も所蔵することができたの
で、このたび農家の炬燵を
模した展示コーナーを新設
しました。

これには、はたおり機、
糸車、自在かぎ、水がめ等
を實際の使用状況に近い方
法で展示し、来館者の好評
をえています。又同館では
秋に、いままでも集めた資料
全部に解説をつけ所蔵民俗
資料展を開催する計画もあ
り、現在準備をすすめてい
ます。

六月四日板橋の秋葉山に
集合し八十名位中頃より百
二十名位までとなりました
午後一時秋葉山量覚院境内
にて山主山本雅門師より修
験道秋葉山の説明あり、神
仏美前に見学し毎年ある十
二月六日頃の火防祭の行事
を想い、山本氏の案内にて
松永美術館及び同庭園を觀
覽し黄梅庵の茶室に思いを
残して去り、それより中野
敬次郎講師の担当となり香
林寺は投入寺として駆込寺の
事情を知り、有名な板橋
地藏尊の常は人なき伽藍に
て緑日の雑沓を忍びつゝ地
蔵信仰の由来を聞き、境内
にある明治維新に箱根及び
山崎での戦争に於ける官軍
博士戦死の碑に小田原藩の
当時の苦境を察し、転じて
山県元師遺蹟の古稀庵庭園
の名石と清流を快覽し、帰
途石工の名家なる北条時代
より徳川時代を経て今日に
至れる青木家を訪北条虎の
朱印書又は関東石工頭等の

お話があり書物以上の秘話
を興味深く大いに参考にな
りました。

民俗資料展示
コーナー新設

市立郷土文化館では、か
ねてより民俗資料を収集し
ていましたが、だいたひ資料
も所蔵することができたの
で、このたび農家の炬燵を
模した展示コーナーを新設
しました。

これには、はたおり機、
糸車、自在かぎ、水がめ等
を實際の使用状況に近い方
法で展示し、来館者の好評
をえています。又同館では
秋に、いままでも集めた資料
全部に解説をつけ所蔵民俗
資料展を開催する計画もあ
り、現在準備をすすめてい
ます。

六月四日板橋の秋葉山に
集合し八十名位中頃より百
二十名位までとなりました
午後一時秋葉山量覚院境内
にて山主山本雅門師より修
験道秋葉山の説明あり、神
仏美前に見学し毎年ある十
二月六日頃の火防祭の行事
を想い、山本氏の案内にて
松永美術館及び同庭園を觀
覽し黄梅庵の茶室に思いを
残して去り、それより中野
敬次郎講師の担当となり香
林寺は投入寺として駆込寺の
事情を知り、有名な板橋
地藏尊の常は人なき伽藍に
て緑日の雑沓を忍びつゝ地
蔵信仰の由来を聞き、境内
にある明治維新に箱根及び
山崎での戦争に於ける官軍
博士戦死の碑に小田原藩の
当時の苦境を察し、転じて
山県元師遺蹟の古稀庵庭園
の名石と清流を快覽し、帰
途石工の名家なる北条時代
より徳川時代を経て今日に
至れる青木家を訪北条虎の
朱印書又は関東石工頭等の

お話があり書物以上の秘話
を興味深く大いに参考にな
りました。

民俗資料展示
コーナー新設

市立郷土文化館では、か
ねてより民俗資料を収集し
ていましたが、だいたひ資料
も所蔵することができたの
で、このたび農家の炬燵を
模した展示コーナーを新設
しました。

これには、はたおり機、
糸車、自在かぎ、水がめ等
を實際の使用状況に近い方
法で展示し、来館者の好評
をえています。又同館では
秋に、いままでも集めた資料
全部に解説をつけ所蔵民俗
資料展を開催する計画もあ
り、現在準備をすすめてい
ます。

六月四日板橋の秋葉山に
集合し八十名位中頃より百
二十名位までとなりました
午後一時秋葉山量覚院境内
にて山主山本雅門師より修
験道秋葉山の説明あり、神
仏美前に見学し毎年ある十
二月六日頃の火防祭の行事
を想い、山本氏の案内にて
松永美術館及び同庭園を觀
覽し黄梅庵の茶室に思いを
残して去り、それより中野
敬次郎講師の担当となり香
林寺は投入寺として駆込寺の
事情を知り、有名な板橋
地藏尊の常は人なき伽藍に
て緑日の雑沓を忍びつゝ地
蔵信仰の由来を聞き、境内
にある明治維新に箱根及び
山崎での戦争に於ける官軍
博士戦死の碑に小田原藩の
当時の苦境を察し、転じて
山県元師遺蹟の古稀庵庭園
の名石と清流を快覽し、帰
途石工の名家なる北条時代
より徳川時代を経て今日に
至れる青木家を訪北条虎の
朱印書又は関東石工頭等の